



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

山梨県 富士吉田市立富士見台中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名：JOCオリンピック教室
- 主催：公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援：スポーツ庁
- 協力：公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象：中学2年生
- 講師：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間：2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数：80校程度
- 実施方法：クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、チームワーク、フェアプレー、身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、オリンピックをより身近に感じてもらいます。



**1コマ目**

**運動の時間 / 50分**

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

**2コマ目**

**座学の時間 / 50分**

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、  
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、  
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基  
づく「オリンピックの価値」等を  
伝える



個人またはグループワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック** : 三宮 恵利子 先生 (スケート/スピードスケート)  
【出場オリンピック/長野大会、ソルトレークシティー大会】
- **期 日** : 2022年6月23日(木)
- **ク ラ ス** : 2年1組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- ・長野1998冬季大会、ソルトレークシティー2002冬季大会にスピードスケートで出場したと自己紹介。高校卒業後、富士吉田市に移り住み、現役時代はこの土地でオリンピックを目指し、トレーニングを積み、そしてオリンピック選手になったと話す。
- ・オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「ベストを尽くす」「一生懸命取り組む」、フレンドシップ：「仲間」「友達」、リスペクト：「思いやり」「相手を称え合う」と説明し、運動の時間はオリンピックバリューを意識しながら取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



- ・各班毎に準備体操をした後、「体を使った後出しじゃんけん」を実施。じゃんけんに勝つ競争と負ける競争の両方を実施する。
- ・主運動は「滑走リレー」を実施(全4回)。片足だけモップシューズを履き、その足をできるだけ床から離さずに滑りながら走り、リレーする。①2チームのタイムトライアル、②2チーム対抗、③3チーム対抗、④3チーム対抗で各班に学校の先生が1人加わる。途中作戦タイムを設けて実施。



- ・運動の時間を振り返り、皆に感想を聞き、「全員が本気で取り組むことができた」との回答に、オリンピックバリューに当てはまることだと伝え、先生と生徒が1つのチームとなり一緒に本気で競争したことで、互いの気持ちを理解し合う良い機会になったのではないかと話す。座学の時間は、運動の時間に感じたオリンピックバリューについて、さらに皆で考えようと伝え、授業終了。

- **オリンピック** : 三宮 恵利子 先生 (スケート/スピードスケート)  
【出場オリンピック/長野大会、ソルトレックシティー大会】
- **期 日** : 2022年6月23日(木)
- **ク ラ ス** : 2年1組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



- ・運動の時間に触れたオリンピックバリューについて、一生懸命取り組む、仲間を大切にする、フェアプレー等、皆にもできることなので、改めて座学の時間に皆で勉強しようと、授業の目的を伝える。
- ・近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンを紹介、またオリンピックシンボルの5つの輪は大陸を表わし、世界中が平和な社会を築くことを理想としてオリンピックは創られたと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



- 発問：運動の時間に工夫したことや感じたこと、実践したこと、思ったこと等をオリンピックバリューに当てはめて考えよう。
- 発表：エクセレンス：「ベストを尽くしタイムを縮めることができたので体育の授業のルールでも実践したい」「最後まで勝つ気持ちで諦めなかった」等  
 フレンドシップ：「タイムが遅くなくても誰も責めなかった」「タイムを上げるための話し合いができた」「勝とうとする雰囲気が良かった」等  
 リスペクト：「拍手や応援をたくさん合えた」「皆の真剣な表情を見て自分も頑張ろうと思った」「ルールを守った」等



- ・世界大会で獲得したメダルを披露。この富士吉田市で汗を流し、歯を食い縛って練習した結果のメダルだったと話す。また、現役時代の映像を見ながら、当時履いていたスケート靴も披露。運動の時間に拍手をたくさんしてくれたが、言葉で伝えることが難しい時に拍手を送ることはとても素晴らしい。皆はこれからスポーツの勝負や勉強の結果が出た時、そのことだけにとらわれず、自分のベストを尽くすことができたか、自分で納得することができたか、結果をどのように受け止め、感じたか等を大切にしてほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

・2年1組



■ 記念品贈呈

・2年1組



■ 修了証贈呈

